

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年11月17日 (2016.11.17)

【公開番号】特開2014-166289(P2014-166289A)

【公開日】平成26年9月11日 (2014.9.11)

【年通号数】公開・登録公報2014-049

【出願番号】特願2013-40185(P2013-40185)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

A 6 3 F 7/02 3 2 4 C

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月29日 (2016.9.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技パネルと、
前記遊技パネルに設けられ、窓部を有する棒状のセンター役物と、
前記センター役物の窓部の左側に向けて延出して設けられた左延出部と、
前記センター役物の窓部の右側に向けて延出して設けられた右延出部と、
前記左延出部に設けられ、遊技球が入球可能な左入球通路部と、
前記右延出部に設けられ、遊技球が入球可能な右入球通路部と、を備え、
前記左延出部を前記遊技領域の左側縁部まで延出して設けるとともに、前記右延出部を
前記遊技領域の右側縁部まで延出して設け、
さらに、前記遊技領域における前記左延出部および前記右延出部の下流側には、遊技釘
が埋設される釘埋設領域が位置するように構成されてなることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

従来、始動口に遊技球が入賞したことに基づいて当りとするか否かの抽選を行い、抽選結果が当りとなった場合には、大当り遊技状態を発生させる遊技機が知られている。この大当り遊技状態では、通常時に閉鎖される入賞口としての大入賞口を開放し、その大入賞口に遊技球を次々と入賞させることで、多量の賞球を短時間で獲得することができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、上記した遊技機では、従来用いられている盤面と比べて変化がなく、遊

技興趣の低下を招くおそれがあった。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

本発明は、上記した事情に鑑みなされたもので、その目的とするところは、遊技興趣の低下を抑止することが可能な遊技機を提供することにある。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００６】

（解決手段１）

遊技球が流下可能な遊技領域が形成された遊技パネルと、
前記遊技パネルに設けられ、窓部を有する枠状のセンター役物と、
前記センター役物の窓部の左側に向けて延出して設けられた左延出部と、
前記センター役物の窓部の右側に向けて延出して設けられた右延出部と、
前記左延出部に設けられ、遊技球が入球可能な左入球通路部と、
前記右延出部に設けられ、遊技球が入球可能な右入球通路部と、を備え、
前記左延出部を前記遊技領域の左側縁部まで延出して設けるとともに、前記右延出部を
前記遊技領域の右側縁部まで延出して設け、

さらに、前記遊技領域における前記左延出部および前記右延出部の下流側には、遊技釘
が埋設される釘埋設領域が位置するように構成されてなることを特徴とする遊技機。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００８

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

本発明の遊技機においては、遊技興趣の低下を抑止することができる。